

図解 はじめての  
「開発のための

..... CMMI-DEV .....  
.....

CMMI® と  
プロセス改善

第 2 版

2

橋本隆成 [著]

*Hashimoto Takanari*



CMM、Capability Maturity Model、CMMIIは、米国特許商標局に登録されている米国カーネギーメロン大学の登録商標です。SCAMPI、IDEALは米国カーネギーメロン大学のサービスマークです。

※本文中では®、SM等は割愛しています。

## はじめに（第2版）

初版の出版から約7年が経過しました。この間にCMMIIは2度ほど改定され、モデルの記述構成や内容および用語は少なからず変更されてきました。初版はCMMIの改善活動の本質に焦点を当てCMMIが初めての方を対象に執筆しましたので、CMMIの2度の改定後も初版の内容は今なお有益と考えています。一方で2度の改定の結果、明らかに内容が古くなった箇所が存在するもの事実です。また、筆者として初版の内容に手を加え、内容をさらに充実させたい箇所もありました。そこで最新のCMMIIに合わせて初版の内容を見直し、第2版を出版することになりました。

CMMIIは現在3種類のモデルが存在しています。本書はこの中の「開発のためのCMMI (CMMI-DEV)」を対象としています。この理由として下記の2つが挙げられます。

- ・「開発のためのCMMI (CMMI-DEV)」は世界中でも最も利用されている
- ・特に日本では製造業やソフトウェア開発およびITインテグレーションなどの開発・生産業務を行う企業が多く「開発のためのCMMI (CMMI-DEV)」を利用するニーズが非常に多い

さらに本書は、「開発のためのCMMI (CMMI-DEV)」の中の「段階型表現」「連続型表現」のうち、「段階型表現」に焦点を当てて説明をします。これも「連続型表現」に比べて「段階型表現」を利用する企業が圧倒的に多いという現状を考慮しました。

本書で説明する内容と深さにも注意しました。CMMIの扱う範囲は大きく内容も多岐に渡ります。入門者用の書籍でCMMIの内容の全てを扱うことは困難です。初版同様、CMMIIに初めて触れる読者のために、些末な箇所の説明にこだわるより、CMMIの最重要事項と改善活動の本質を理解していただくことを念頭におきました。

第2版の内容の主な特徴は下記になります。

- ・「開発のためのCMMI (CMMI-DEV)」の最新版ver1.3に合わせて内容を見直した
- ・「共通ゴール」と「共通プラクティス」の説明を初版よりも充実させた
- ・文章を推敲しわかりやすい文章に修正した

今回第2版の出版に際して、当初の予定よりも大幅な加筆・修正となってしまいました

た。そのことで日刊工業新聞社の奥村功さんに多大なお世話になりました。この場を借りて感謝したいと思います。

2013年8月

橋本隆成

# はじめに

本書は、米国のカーネギーメロン大学ソフトウェア工学研究所（SEI:Software Engineering Institute）が開発した「能力成熟度モデル統合（CMMI:Capability Maturity Model Integration）」を用いたプロセス改善の入門書です。

カーネギーメロン大学SEIの能力成熟度モデル統合は、米国、日本はもとより、世界中の企業で実施されている組織改革、プロセス改善に有効なモデルとして知られています。CMMIが広く知られるに従い、日本企業もそれを用いたプロセス改善の導入・活用がますます活発になっています。

CMMI自体は、書籍やセミナーなどで数多く紹介されていますが、実際にCMMIを用いて組織でプロセス改善活動をどのように行うかを解説した手引きは存在していません。CMMIによる組織改革・改善活動は、CMMIのモデル記述を理解しただけでは不十分で、改善活動のハウツウを知らなければなりません。

このために、士気の高い企業がCMMIによる改善活動を試みようとしても、どうしたらいいのかわからず途方にきてしまいます。つまり、CMMIの認知・注目が高まるにつれて、CMMIの具体的な導入・活用についての情報が望まれているのです。

本書はCMMIが初めての方でも、CMMIの基本を理解しながらプロセス改善活動に必要な基本事項がイメージできるように、図や表を多用して解説しています。CMMIは原文が英語ということに加え、文書や用語にあいまいな点がないように書かれているために、どうしても厳格で難解な表現になっています。本書は、できる限りイメージで直感できるように、図版を多用した解説を行っています。最初から詳細に気を取られることなく、CMMIの全体像をつかんでもらえれば良いと思います。

本書の解説の特徴と狙いは、CMMIの入門解説から、実際にCMMIを用いた改善活動に必要な基礎をひとまとまりに解説しているという点です。本来、CMMIのモデルの解説とCMMIを用いた改善活動の進め方は一緒に解説されるべきもので、分離して書籍やセミナーで取り上げられるべきものではありません。

CMMIが扱うプロセス改善の範囲は広く、そのため活動および関連する専門的な解説の全てを一冊の書籍で記載することは難しいのが現状です。また、CMMIのプロセス改

善の学習と理解は、改善活動を通じて得られることが少なくなく、最初から全てを理解する必要はありません。

学習効果のポイントから考えると、CMMIによるプロセス改善活動の最初のハードルは、「初めてCMMIを学ぶ」ときと、「プロセス改善活動を始めるとき」にあります。実際、多くの方から企業の組織やプロジェクトにCMMIによる改善活動を実施する場合、CMMIをどのように取り入れていくかを学習することが重要なのですが、多くの場合、「何をどこから手をつけてよいかわからない」、「CMMIモデルの読み方がわからない」、「モデルに書かれていることがわかりにくい」という声を聞きます。

そこで、本書は、CMMIの理解から始まり、プロセス改善活動の始め方、段階型表現の組織成熟度レベル2の活動とレベル3以降のポイントまでを中心に解説しています。

CMMIによるプロセス改善全般についての解説と具体例（実際のプロセスやテンプレートおよび、計画のサンプル）は、本書の続編に当たる「詳細編」で解説することを企画、検討中です。「詳細編」は実際に組織改革の活動や改善活動を実施する実践書を狙っています。まずは本書で、その基礎を確認し、自らの糧としていただければと思います。

なお、本書を執筆中にSEIから現在のCMMI ver1.1からver1.2に更新のアナウンスがありました。本書は現在のCMMI ver1.1に基づき解説していますが、本書の解説範囲はCMMI ver1.2への更新による影響を強く受けないと考えています。読者の方は特に気にせず読み進めていただけます。

最後になりますが、本書の執筆にあたり株式会社デンソー佐々木明博氏に大変なご協力をたまわりました。心より感謝いたします。

2006年9月

橋本隆成